



尚 操



〈発行所〉

鳥取県立倉吉西高等学校
尚 操 会

〒682

鳥取県 倉吉市秋喜20
倉吉西高等学校内

印刷 (有) 矢積印刷



倉吉高女挺身隊員のパネルを持つ生徒会執行部生徒
背景は山耕先生作「倉吉高女正門」

先輩の平和への想いを
今に生かしたい

本年七月七日から三日間にわたって開催された西高祭に、生徒会執行部は、特別展として原爆の日の広島をテーマとしてとりあげ、その廃墟の街の模型とパネルであらためて、核戦争の恐ろしさと、平和への願いを訴えました。

この展示にあわせて、私たちは倉吉高女二十九回・三十回の卒業生で、女子挺身隊員を志願され、昭和十九年春から敗戦の日まで、広島に近い呉海軍工廠で働いておられた方々の証言を紹介しました。この先輩方は八月六日の朝、広島島の空に炸裂した原爆の閃光を見、爆風を体験されたのでした。その貴重な記録写真をパネルとして展示させていただきました。

全員が決死の覚悟で白いはちまきをしめ撮影された写真もありますが、その中の何人かの方は、この時の無理が原因で物故されたとうかがっています。

私は生徒たちに、この女子挺身隊員の年齢は、丁度、高校の二・三年にあたることを説明し、今は私たちが、戦争のためでなく、世界の平和のために汗を流さなくてはならないと話しました。

戦いの日に労苦された先輩の熱い想いを今に生かすために、本校は今後も、国際理解や平和のための教育を推進したいと考えます。

(学校長 高多彬臣)

花・水・木

ヒシクラ醤油の近くに位置した西校舎/私の青春である高校生活は戦後の倉吉高等学校に始まり後東、西に分離する多難な学制改革の時代であった。▲ニオイに始まりニオイに終る高校生活となるが、サスペンスTVでおなじみの現在東宝の映画監督小谷承靖氏をクラスメートに一年四組(調理室の二階)伊佐田学級は調理実習の度にニオイに悩まされた話で花が咲く。一年四組こそ私の高校生活の全容に値する。▲中学で始めたピンポンもクラブ活動となって本格的となる。三学期の中部大会で個人優勝。しかし「卓球で飯は食えん。クラブはそこそこの勉強の方を!!」担任の伊佐田先生より母へ参観日の日の忠告でした。素直な私はそれも可とあっさり退部しました。三年進級時に東高・西高に分離、なつかしの西校舎に帰ったものの以前の教室には足を踏み入れることなく三年を終了。▲倉女、西高の区別なく醤油のニオイで話はずむ尚操会、今なお忘れられない調理室のニオイ、青春を謳歌した時代のこの二ツの美しい香りこそ五十の坂を登りつめ六十への足がかりとする最高の糧ではなかったかと今にしてつくづく思う私です。

(西高一回 新藤三恵)

支部総会同窓会だより

ある同期生会の

思い出

尚操会会長

中島恵美子



万感胸に迫る風情だった。京都ホテルでの再会、それは手に手を取り、抱き合い愛しみ合う一刻だった。翌日の見学旅行、それはきまぬ話にどこをどう見たやらおぼえていないと。でもよかったと。

関西支部 再発足の総会

昨年五月下旬、会長中島先生のご要望を受けてより一年近く、四月十六日ようやく関西支部発足の総会を持つことができました。

この間に、準備委員会並びに企画会議・役員会あわせて四回の会合を持ちました。準備委員の選出や案内状発送など尚操会事務局のお力添えを頂き、又、倉女二十八期の健代さんには、毎回の会場のご提供と、総会々場の確保、当日の昼食の手配など、大変なお力添えを頂き、お蔭様で無事第一回総会を持てましたことを感謝しております。

四月十六日、夜来の雨もあがり緑美しい庭にかこまれた四天王寺本坊に集まった会員は、大阪府九十五名、兵庫県三十四名、京都府十四名、奈良県九名、滋賀県二名、和歌山県一名、合計一五五名で遠路お越しの高多校長先生、中島会

長先生、米山副会長さん、事務局高浜先生と総勢一五九名の会となりました。ちなみに集計してみました、倉女五十三名、西高一〇二名でした。最高齢は倉女七回の木村照子さんです。十回の妹さん福永サダ代さんと参加して下さいました。男性は西高二十四回の安永武さんただ一人、会場では校長先生に近く座って頂きました。参加申込後の取消が十八名もありまして、それぞれのご都合でやむをえませんが大変残念に思いました。

尚操会には京阪神支部がすでに存在していましたが、支部長さんのご世界で長年活動も途絶えていました。現在は近畿圏の交通も至極便利な中で奈良・滋賀・和歌山も含めては、とのご意見もあり準備委員会の賛同を得て近畿二府

四県の関西支部として再発足いたしました。後日、三重の方から、『案内が無かった』とのお声も耳にしました。

総会は、経過報告・役員選出と型通り無事に進行いたしました。昼食をとりながらの懇親会となりました。先ず校長先生より西高の輝かしい現状のご紹介、会長先生より尚操会の近況などお話しいただき、全員なつかしいっぱいでお聞きしました。八十四才の木村さん、黒一点の安永さんのスピーチ、倉女三十三期小原喜代さんの素晴らしい独唱など、進行係がマイクを持って会場を走りまわりました。卒業回毎に立上って代表に短いスピーチをお願いしましたら、倉女七回より西高二十四回まで、次第に盛上ってまいりました。最後には時間が足りない感じになるくらいでした。最後に二つの校歌を斉唱し、久方ぶりの同窓の集まりにいささか興奮ぎみの会員達、再会を期して散会いたしました。

健代さんのご好意で、ご子息の清水寺ご住職さんにご案内頂き、四天王寺参詣と見学並びに宝物殿の拝観ができましたことも、会員の皆さまには良い収穫であったことと思っております。

こうして、とも角も第一回総会を持ち関西支部の形がなんとかできました。今後は育てることに努力したいと考えております。

最後になりましたが二五〇〇名

近い関西在住者に案内状発送及び出欠の取りまとめをして頂きました本部事務局の方々のお骨折りに心から感謝を申し上げます。転居などの多い現在、住所の把握は並大抵のことではないと思っております。今後は本部と連絡を密にして支部組織を固め母校を共にする者達の間関係を更によりよく育てる日々できたらどんなにか幸せと、それを念じて支部総会の報告いたします。(倉女二八期生川口智子)

参加会員の「声」 (田村) なつかしさのあまり、妹と共に京都より参加しました。同年輩の方に逢えなかったのは残念でした(八四ページ後段へ)

二十四期生会

鳥取で開催

母校去り五十年、毎年集会の同期生が六月鳥取在住五名の幹事が世話係で八十才の恩師堤・福田両先生を招待、四十数名参集した。百十五名健在、三十六名の物故者のご冥福祈念し、懐かしい校歌の大合唱後全員で輪になり踊り大笑いした。来年春は打吹公園で花の四月、ムシロ敷いて折弁当と決定し、異動住所届けを済ましたばかりです。一夜明けて市内見学後門脇茶屋でなごりつきない昼食し関東・関西・九州と別れを惜しみながら再会を約束した。数年後には楽



しみにしている母校八十周年がやってくる。近くの校庭で西高卒の野球部員だった生部君が小学生の野球指導に大声で頑張っている姿が実に嬉しい。友人のきずなを大切に後進の範になる所存です。

(倉女二十四期生 北村美恵子)

二十九期生

還暦のクラス会

昭和十八年倉女卒の私達は現在数県外三五名外国一名縮めて一〇七名物故者二名総計一六五名です。そして還暦なる一泊クラス会を開催する輪となったのです。全国津々浦々に散在する友に先ず予告便りで心の準備を促したところ回答は今までに九九パーセント、手応え十分でありました。

迎える恩師は同窓会の中島恵美子会長は勿論、八十才の松井賢太郎、七十七才の篠田養三三先生//その夜は遠足、農家への勤労奉仕、



年毎のクラス会の写真をスライドに編集し映画会さながらの「コマ」そして卒業以来四十年余の歩みを一人一人発表し合ったのが圧巻でありました。翌日は宿(養生館)のご好意で東郷湖一周のドライブ。七十周年記念事業で装いもあらたな秋喜西高校舎を訪れ、そして懐しの余戸谷に足をとどめ、今は跡片なき学び舎に暫し想いを馳せ乍らも東京から一名、阪神から十一名の参加者には今も変らぬ水道山の松の緑が温かく迎えて呉れたこととの満足感があつた様に見受けられました。還暦と銘打ったクラス会も二次会(?)で三朝温泉一泊すっかり八十才の乙女に戻り再会を固く固く約束して、昭和六十二年十一月十四日からの三日間の夜は更けていったのであります。私達の母校倉吉西高のますますの発展を祈り乍ら……。

(倉女二十九期生 米山重子)

きずなは固く

三十三期生会

六月半ば、望湖楼に、八二名の同期生が集まって参りました。「ようこそ、ようこそ」「わあ、なつかしい」私達は、四十年の歳月をとびこしました。

記念撮影をすませ、大広間での宴会です。はじめに物故者のご冥福をお祈りし、校歌斉唱、恩師のごあいさつをいただき、かくし芸です。日本舞踊・民踊・銭太鼓・大正琴等、時を忘れての楽しいひと

ときを過し、夜は、それぞれの部屋で明け方まで語りあいました。明けて第二日、東郷湖畔での散策を楽しみ、倉吉物産館で、ふるさとの土産を買い求めました。戦中戦後、苦楽を共にした私達のきずなは一層強く、次会は東京と約束して、同窓会を閉じることが出来ました幸せを、感謝いたします。

(倉女三十三期生 田中淑子)

西高六回生会

大阪のホテルで

昭和六十三年十一月二十七日(日)、大阪守口プリンスホテルにおいて、西高六回生三十三名が、校長となられた、三年時の担任高多先生をお迎えして集まりました。ご多忙の先生、東京、博多、犬山と遠くからの出席もあり、中には卒業以来三十年振りの方もあつて、互に顔がわかるかしらと心配しましたが、皆若々しく、しかも若き日の面影を残したよい中年となつておりました。あの日、あの時の事を思い出し、倉吉弁で話す楽しさはまた格別でした。(ホテルのボーイさんには、外国語のように聞こえたそうです)

時の経つのも忘れた三時間でした。何だか話し足りない思いで、又、互に元気で再会しましょうと約束してお別れしました。

(西高六回生 尾崎節恵)



▲河本さん

ご立派な人生を偶然にも知った。彼女の宿願は一度に噴き出し、近くに住む私に傘を返すよう頼んできたのである。MさんはS温泉で旅館を経営しておられ、今はお手伝いに余念がない。私は紛失した傘の身代わりとして、新品の黒いこうもり傘を携えてMさんを訪ねた。

来意を告げたとき、やや耳の遠いMさんは戸惑っていた。やがて同窓会名簿を持ち出してめぐりはじめた。私は叔母の写真を出して説明した。

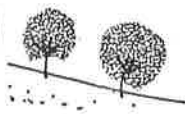
「傘のことは忘れませんでした。しかし、小柄なKさんは思ひ出しました」と懐かしそうにいった。彼女の白髪は美しく、顔は少女のようにつやつやしていた。満足の笑みが浮かんだ。傘は軽かった。しかし、感動は重かった。

70年ぶりにお返しした傘 心暖まる同窓生の交歓

私の叔母は郷土を遠く離れ息子のもとで、老後を静かに送っている。八十六歳になり、写経が日課である。その叔母から突然、電話がかかってきた。

大正八年(一九一九)、叔母が女学校三年のとき、一級上のMさんが黒いこうもり傘を貸してくれた。その傘を返さずじまいになったことが心の底にいつもあった。愛読している修養雑誌でMさんの

▼松原さん



母校はい

燃焼した 西高祭

七月七日から三日間、「平成元年 見せませす やりませす 燃えさせませす」のテーマのもと、第二十二回西高祭が催されました。

開催式、弁論のあと、梅雨晴れの中を市内パレード。倉吉養護学校の生徒さんを招いてのプレフェスティバル、チーム毎、さらには家庭クラブのファッションショーは圧巻でした。二日目は舞台発表で各チームの演劇披露、分けても



抱腹絶倒の職員演劇、部落解放研究所・演劇部合同の解放劇「二、五畳の畳」はすばらしい熱演でした。倉養の生徒さんはこの日も招待、各イベント、模擬店を愉しみました。デコレーションでは、「二十一世紀を生き抜く食を考える」と題しての陸上競技部の各種展示、雑穀の試食・食品販売、さらに「二十一世紀の生活を考える」とした家庭クラブの展示は、過去から現在までの衣食住を再現、さらに執行部による力作「広島原爆展」は、焼跡のヒロシマ市街模型を作るなど、大変真剣な取り組みでした。

三日目は合唱コンクール、チーム毎のさいとりさし、壁塗りさんこ等の郷土芸能の披露にやんやの喝采。当日は朝から雨模様でやきもきました。がランドファイヤーの頃には雨も降らず、ぬかるみの中でゴーゴー、フォークダンス

進学 難化する入試

元年度入試は、国公立大共通一次試験の物理・生物の得点を修正するとうい混乱から始まり、二次試験では、従来の連続方式に分離方式が採用され大変複雑化、予測のつかない入試となりました。その中であつても、本校生は着実に歩み、健闘しました。

国公立大は、10名合格した鳥取大をはじめ、難関の薬学部(名古屋市立大)、島根・山梨・兵庫教育・愛媛・都留文科・広島女子・広島県立大に合計21名(現役9名、昨年合計16名)が合格しました。国公立短大は、大月短大ほか14名の合格で昨年並。私立大は、国公立大からの流れ込みや安全志向による上位校から中堅下位校へと志願者が集中し、また将来の18才人口の減少をみての大学の対応が合格者を絞る等々の理由により、中堅下位校が難化しました。その結

果合格者は昨年78名(現役46名)から、今春51名(現役36名)に減少しました。以下、私立短大49名、高看・医療30名、他の専門学校60名の合格がありました。高看関係も難化しました。

女子19、県外男子7、女子15と今年には昨年比し県内女子の減少が目立ちました。

**平成元年度尚操会
総会あんない**

と き 8月20日(日) 10:00~
と ころ 倉吉シティホテル
TEL 26-6111(代)
会 費 ￥2,000

お誘い合わせ、多数のご参加をお願いします。

(種近 三郎)

就職

好況の就職戦線

63年度は「いざなぎ」景気以来の好景気といわれ、国内経済は個人消費と企業の設備投資を軸に活況を呈しました。その影響で求人も県内外とも増加し、就職希望者にとっては恵まれた状況でした。概要を申しますと、県内男子10

九月十六日の就職選考に向けて、この夏は最後の追い込みに力一杯努力することになります。会員の皆様にも、後輩のため、何かとご助力いただきますようお願いいたします。(兵本 修三)

西高九回 岡村光子(浅井)